

平成30年3月期 決算短信(日本基準)(連結)

平成30年5月11日

上場会社名 株式会社 ガーラ

上場取引所 東

コード番号 4777 URL <http://www.gala.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役グループCEO

(氏名) 菊川 暁

問合せ先責任者 (役職名) グループ戦略部 部長

(氏名) ジョーシ ガブリエレ

TEL 03-5778-0321

定時株主総会開催予定日 平成30年6月23日

有価証券報告書提出予定日 平成30年6月25日

配当支払開始予定日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期の連結業績(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期	815	12.6	260		270		361	
29年3月期	724	56.0	399		411		404	

(注) 包括利益 30年3月期 360百万円 (%) 29年3月期 425百万円 (%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益	自己資本当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
30年3月期	22.76		111.0	31.2	32.0
29年3月期	25.53		61.8	35.5	55.2

(参考) 持分法投資損益 30年3月期 百万円 29年3月期 百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期	773	204	26.0	12.67
29年3月期	961	458	46.7	28.33

(参考) 自己資本 30年3月期 201百万円 29年3月期 449百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
30年3月期	348	168	114	154
29年3月期	370	9	131	558

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
29年3月期		0.00		0.00	0.00			
30年3月期		0.00		0.00	0.00			
31年3月期(予想)		0.00		0.00	0.00			

3. 平成31年 3月期の連結業績予想(平成30年 4月 1日～平成31年 3月31日)

当社及び当社グループは、スマートフォンアプリ事業における、アプリの開発やダウンロード配信が予定どおりに進まない可能性や、ダウンロード配信開始後のアプリによる課金収入の予測が極めて困難であり、また、オンラインゲーム事業における、既存タイトルのバージョンアップによる業績予想が極めて困難であることから、業績予測の公表を差し控えさせていただきます。

注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期	15,880,800 株	29年3月期	15,854,800 株
期末自己株式数	30年3月期	株	29年3月期	株
期中平均株式数	30年3月期	15,863,890 株	29年3月期	15,854,800 株

決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(決算補足説明資料の入手方法)

決算補足説明資料については、決算発表後に当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等	3
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	3
3. 連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 連結貸借対照表	4
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	6
連結損益計算書	6
連結包括利益計算書	7
(3) 連結株主資本等変動計算書	8
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	10
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(セグメント情報等)	11
(1株当たり情報)	13
(重要な後発事象)	14

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善が続いており、景気は緩やかな回復基調で推移しました。

当社及び連結子会社（以下、「当社グループ」という。）におきましては、「世界No.1のグローバル・オンライン・コミュニティ・カンパニー」を目指し、オンラインゲーム事業からスマートフォンアプリ事業へ事業主体の移行を進めてまいりました。

当社グループの当連結会計年度における業績の概況は以下のとおりであります。

当連結会計年度は、連結売上高815,658千円（前期比12.6%増）となり、大幅な増収となりました。これは、スマートフォンアプリ事業の売上高が前期と比較して増加したことによります。

販売費及び一般管理費につきましては、前期と比較して人件費の増加があったものの、マーケティング活動費用が減少したことにより減少となりました。

これらの結果、営業損失260,912千円（前期は営業損失399,809千円）、経常損失270,801千円（前期は経常損失411,433千円）、親会社株主に帰属する当期純損失361,058千円（前期は親会社株主に帰属する当期純損失404,809千円）となりました。

なお、当社は、平成30年3月28日開催の当社取締役会において、ゲーム事業のグローバル展開の推進と拡大、並びにインバウンドやVR・ARなどの成長分野への新規事業展開による新たな収益基盤の構築を図ることを目的として第三者割当による新株式の発行及び第4回新株予約権の発行の決議を行い、平成30年4月13日に払込手続きが完了しております。当該新株式の発行及び第4回新株予約権の発行の概要は、「3. 連結財務諸表及び主な注記（5）連結財務諸表に関する注記（重要な後発事象）」に記載しております。

セグメントの業績の概況は次のとおりであります。

イ. 日本

日本セグメントでは、連結子会社Gala Lab Corp.が開発したスマートフォンゲームアプリ「Flyff Legacy（フリフレガシー）」日本語版を、連結子会社(株)ガーラジャパンが平成29年9月よりダウンロード配信を開始いたしました。配信開始後の売上高は概ね順調に推移しておりますが、平成28年5月からダウンロード配信を行っている「Arcane（アーケイン）」の売上が減少したため、前期と比較し売上高（内部取引を含む）が減少いたしました。

また、「Arcane（アーケイン）」に係るマーケティング活動費用が、前期と比較して減少しているため、販売費及び一般管理費が減少いたしました。

これらの結果、日本セグメントにおける売上高は225,807千円（内部取引を含む）と前期比で168,854千円（42.8%）の減収となり、セグメント損失が174,958千円（前期は349,944千円の損失）となりました。

ロ. 韓国

韓国セグメントでは、連結子会社Gala Lab Corp.のオンラインゲーム事業で主力ゲームの「Rappelz（ラペルズ）」及び「Flyff Online（フリフオンライン）」において、ユーザーへのアイテム販売減少によるロイヤリティの減少により売上高が減少いたしました。

一方、スマートフォンアプリ事業では、連結子会社Gala Lab Corp.が開発したスマートフォンゲームアプリ「Flyff Legacy（フリフレガシー）」について、平成29年1月の韓国語版のサービス提供開始以来、当社の強みであるグローバルなネットワークを活かした多言語展開による配信を進めております。

当連結会計年度においては、平成29年5月に英語版（フィリピン、オーストラリア、ニュージーランド、タイ、ベトナム、インドネシア）、平成29年9月に日本語版（日本）、中国語版（台湾、香港、マカオ）、タイ語版（タイ）、英語版（北米等）、平成29年12月に英語・ドイツ語・フランス語版（欧州）、平成30年3月にアラビア語版（韓国、日本、東南アジア、中国、台湾以外のグローバル地域）、ポルトガル語版（ブラジル）、スペイン語版（南アメリカ、スペイン）、ロシア語版（ロシア）のサービス配信を行っております。なお、平成29年12月には、「Flyff Legacy（フリフレガシー）」韓国語版をリニューアルし、「Flyff Remaster（フリフリマスター）」としてダウンロード再配信を開始いたしました。

また、平成29年12月に連結子会社Gala Mix Inc.が開発した歩数計アプリ「Winwalk（ウィンウォーク）」英語版（英国）、フランス語版（フランス）を、平成30年3月に英語版（米国）の配信を開始いたしました。

配信開始後の売上高は概ね順調に推移しており、前期と比較し売上高（内部取引を含む）が増加いたしました。

費用面では、連結子会社Gala Lab Corp.が、韓国のRed Sahara Studio Inc.が開発したRPGゲーム「Immortal Warrior（日本リリース名：エターナルヒーロー）」のMMORPG版を開発することとなり、開発に係る人件費等が増加したため、前期と比較して販売費及び一般管理費が増加いたしました。

これらの結果、韓国セグメントの売上高は687,650千円（内部取引を含む）と前期比で259,140千円（60.5%）の増収となり、セグメント損失が83,475千円（前期は63,197千円の損失）となりました。

なお、現在、PCオンラインゲーム「Rapplez（ラペルズ）」を題材にしたスマートフォンアプリ「Rappelz Mobile（ラペルズモバイル）」の開発を行っており、平成31年3月期のリリースに向けて開発及び準備を進めております。

上記金額には消費税等は含まれておりません。

（2）当期の財政状態の概況

（イ）資産

流動資産は、前連結会計年度末に比べて62.3%減少し、249,891千円となりました。これは主に現金及び預金が403,491千円減少したことによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて75.1%増加し、523,740千円となりました。これは主に長期前払費用が162,463千円、ソフトウェア仮勘定が83,803千円それぞれ増加したことによります。

（ロ）負債

流動負債は、前連結会計年度末に比べて36.8%減少し、166,336千円となりました。これは主に未払金が63,287千円、前受金が32,435千円それぞれ減少したことによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて68.0%増加し、402,934千円となりました。これは主に長期前受収益が133,892千円増加したことによります。

この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べて13.2%増加し、569,270千円となりました。

（ハ）純資産

純資産は、前連結会計年度末に比べて55.4%減少し、204,361千円となりました。これは主に親会社株主に帰属する当期純損失により利益剰余金が減少したことによるものであります。

（3）当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)の残高は、前連結会計年度末に比べて403,491千円減少し、154,646千円となりました。

（イ）営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、使用した資金は348,525千円（前期は370,621千円の資金獲得）となりました。支出の主な内訳は税金等調整前当期純損失350,264千円、長期前払費用の増加167,812千円であり、収入の主な内訳は長期前受収益の増加137,574千円、無形固定資産除却損72,514千円であります。

（ロ）投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、使用した資金は168,053千円（前期は9,164千円の資金獲得）となりました。支出の主な内訳は無形固定資産の取得による支出162,816千円であります。

（ハ）財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、獲得した資金は114,334千円（前期は131,600千円の資金使用）となりました。収入の主な内訳は、非支配株主からの払込による収入108,900千円であります。

（4）継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において営業損失399,809千円及び親会社株主に帰属する当期純損失404,809千円を計上しております。また、当連結会計年度において売上高が前連結会計年度に比べて12.6%増加し、815,658千円となったものの、営業損失260,912千円及び親会社株主に帰属する当期純損失361,058千円を計上しております。現在の低迷した売上状況が継続すれば営業損失が継続し資金繰りに懸念が生じる可能性があります。当該状況等により継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループでは、当該状況を早期に解消又は改善すべく対応策に取り組んでおりますが、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。なお、継続企業の前提に関する事項及びその対応策に関しましては、「3. 連結財務諸表及び主な注記（5）連結財務諸表に関する注記（継続企業の前提に関する注記）」に記載しております。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは日本基準により連結財務諸表を作成しております。なお、国際会計基準（IFRS）の適用につきましては、国内外の諸情勢を踏まえ、対応を検討していく方針であります。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	558,138	154,646
売掛金	79,956	74,328
前払費用	22,814	17,434
その他	1,866	3,649
貸倒引当金	△305	△167
流動資産合計	662,470	249,891
固定資産		
有形固定資産		
建物	259	1,068
減価償却累計額	△204	△499
建物(純額)	54	569
工具、器具及び備品	8,094	12,431
減価償却累計額	△2,885	△6,010
工具、器具及び備品(純額)	5,208	6,421
有形固定資産合計	5,262	6,990
無形固定資産		
ソフトウェア	102	29
ソフトウェア仮勘定	147,925	231,729
権利金	25,037	—
その他	6,079	3,699
無形固定資産合計	179,145	235,458
投資その他の資産		
投資有価証券	460	580
長期貸付金	84,569	88,675
敷金及び保証金	6,412	6,381
長期前払費用	20,432	182,895
破産更生債権等	23,062	23,062
貸倒引当金	△20,303	△20,303
投資その他の資産合計	114,634	281,291
固定資産合計	299,041	523,740
資産合計	961,512	773,631

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,759	2,759
未払金	109,825	46,537
未払費用	54,470	55,647
前受金	56,596	24,160
前受収益	33,898	33,951
未払法人税等	1,240	1,240
その他	4,385	2,040
流動負債合計	263,175	166,336
固定負債		
長期前受収益	100,023	233,916
繰延税金負債	64	100
退職給付に係る負債	97,635	124,695
長期預り保証金	42,111	44,222
固定負債合計	239,834	402,934
負債合計	503,010	569,270
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,101,527	3,105,524
資本剰余金	1,657,072	1,754,370
利益剰余金	△3,813,780	△4,174,838
株主資本合計	944,819	685,055
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	145	228
為替換算調整勘定	△495,815	△484,142
その他の包括利益累計額合計	△495,669	△483,914
新株予約権	8,288	—
非支配株主持分	1,064	3,219
純資産合計	458,501	204,361
負債純資産合計	961,512	773,631

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
(連結損益計算書)

(単位:千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
売上高	724,270	815,658
売上原価	283,423	238,678
売上総利益	440,846	576,980
販売費及び一般管理費	840,656	837,892
営業損失(△)	△399,809	△260,912
営業外収益		
受取利息	3,305	5,533
その他	435	751
営業外収益合計	3,741	6,284
営業外費用		
支払利息	3,647	2,531
為替差損	11,176	13,639
その他	541	2
営業外費用合計	15,364	16,173
経常損失(△)	△411,433	△270,801
特別利益		
固定資産売却益	188	343
新株予約権戻入益	—	5,727
特別利益合計	188	6,071
特別損失		
固定資産除却損	—	72,514
減損損失	—	13,019
特別損失合計	—	85,534
税金等調整前当期純損失(△)	△411,244	△350,264
法人税、住民税及び事業税	6,485	21,027
法人税等合計	6,485	21,027
当期純損失(△)	△417,730	△371,291
非支配株主に帰属する当期純損失(△)	△12,920	△10,232
親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△404,809	△361,058

(連結包括利益計算書)

(単位:千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
当期純損失(△)	△417,730	△371,291
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	58	82
為替換算調整勘定	△7,745	10,991
その他の包括利益合計	△7,687	11,074
包括利益	△425,417	△360,216
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	△411,968	△349,302
非支配株主に係る包括利益	△13,448	△10,913

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自平成28年4月1日至平成29年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	3,101,527	1,657,072	△3,408,970	1,349,629
当期変動額				
親会社株主に帰属する 当期純損失(△)			△404,809	△404,809
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)				—
当期変動額合計	—	—	△404,809	△404,809
当期末残高	3,101,527	1,657,072	△3,813,780	944,819

	その他の包括利益累計額			新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の包括利 益累計額合計			
当期首残高	86	△488,598	△488,511	8,288	14,513	883,919
当期変動額						
親会社株主に帰属する 当期純損失(△)			—			△404,809
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	58	△7,217	△7,158		△13,448	△20,607
当期変動額合計	58	△7,217	△7,158	—	△13,448	△425,417
当期末残高	145	△495,815	△495,669	8,288	1,064	458,501

当連結会計年度(自平成29年4月1日至平成30年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	3,101,527	1,657,072	△3,813,780	944,819
当期変動額				
新株の発行(新株予約権の行使)	3,997	3,997		7,994
親会社株主に帰属する当期純損失(△)			△361,058	△361,058
連結子会社の増資による持分の増減		93,300		93,300
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)				—
当期変動額合計	3,997	97,297	△361,058	△259,763
当期末残高	3,105,524	1,754,370	△4,174,838	685,055

	その他の包括利益累計額			新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	145	△495,815	△495,669	8,288	1,064	458,501
当期変動額						
新株の発行(新株予約権の行使)			—			7,994
親会社株主に帰属する当期純損失(△)			—			△361,058
連結子会社の増資による持分の増減			—			93,300
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	82	11,672	11,755	△8,288	2,155	5,622
当期変動額合計	82	11,672	11,755	△8,288	2,155	△254,140
当期末残高	228	△484,142	△483,914	—	3,219	204,361

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純損失(△)	△411,244	△350,264
減価償却費	13,520	18,428
減損損失	—	13,019
貸倒引当金の増減額(△は減少)	235	△136
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	7,669	28,036
受取利息及び受取配当金	△3,308	△5,535
支払利息	3,647	2,531
有形固定資産売却損益(△は益)	△188	△343
無形固定資産除却損	—	72,514
新株予約権戻入益	—	△5,727
売上債権の増減額(△は増加)	45,023	5,065
前払費用の増減額(△は増加)	541,584	5,419
長期前払費用の増減額(△は増加)	—	△167,812
前受金の増減額(△は減少)	27,789	△31,878
長期前受収益の増減額(△は減少)	14,507	137,574
その他	140,386	△49,023
小計	379,622	△328,132
利息及び配当金の受取額	1,568	583
利息の支払額	△4,194	—
法人税等の還付額	134	126
法人税等の支払額	△6,510	△21,104
営業活動によるキャッシュ・フロー	370,621	△348,525
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	100,000	—
有形固定資産の取得による支出	△4,633	△5,648
有形固定資産の売却による収入	188	391
無形固定資産の取得による支出	△85,451	△162,816
その他	△940	19
投資活動によるキャッシュ・フロー	9,164	△168,053
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△131,600	—
非支配株主からの払込みによる収入	—	108,900
新株予約権の行使による株式の発行による収入	—	5,434
財務活動によるキャッシュ・フロー	△131,600	114,334
現金及び現金同等物に係る換算差額	4,188	△1,247
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	252,373	△403,491
現金及び現金同等物の期首残高	305,764	558,138
現金及び現金同等物の期末残高	558,138	154,646

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社及び連結子会社（以下、「当社グループ」という。）は、前連結会計年度において営業損失399,809千円及び親会社株主に帰属する当期純損失404,809千円を計上しております。また、当連結会計年度において売上高が前連結会計年度に比べて12.6%増加し、815,658千円となったものの、営業損失260,912千円及び親会社株主に帰属する当期純損失361,058千円を計上しております。現在の低迷した売上状況が継続すれば営業損失が継続し資金繰りに懸念が生じる可能性があります。当該状況等により継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を早期に解消又は改善すべく、以下の対応策を実施してまいります。

まず、スマートフォンアプリ事業においてライセンスを獲得したゲームアプリ「Arcane（アーケイン）」及び、自社グループ開発のゲームアプリ「Flyff Legacy（フリフレガシー）」のサービスを提供しております。また、自社グループ開発のPCオンラインゲーム「Rappelz（ラペルズ）」を題材としたゲームアプリ及び、他社RPGゲーム「Immortal Warrior（日本リリース名：エターナルヒーロー）」のMMORPG版の早期開発を目指します。これらにより、提供するゲームアプリを増やし、スマートフォンアプリ事業の収益化に向けて注力してまいります。

資金繰りにつきましては、平成30年3月28日開催の当社取締役会において、第三者割当による新株式及び新株予約権の発行決議を行っており、当面の事業資金を確保する予定であります。

以上の施策を実施するとともに、今後も引き続き有効と考えられる施策については、積極的に実施してまいります。

しかしながら、これらの改善策を実施してもなお、今後の売上高及び利益の回復は、スマートフォン向けアプリの開発の進捗状況、市場投入の時期、市場での競争激化による環境の変化等に左右されることから、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、当社グループの連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を連結財務諸表に反映しておりません。

(セグメント情報)

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち、分離された財務情報が入手可能であり、最高経営責任者（代表取締役）が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループはインターネット関連事業を主たる事業内容としており、国内、韓国の各地域を現地法人が、それぞれ担当しております。現地法人はそれぞれ独立した経営単位であり、取り扱うサービスについて各地域の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って、当社グループは、サービス体制を基礎とした地域別のセグメントから構成されており、「日本」及び「韓国」の2つを報告セグメントとしております。各報告セグメントの主な事業は以下のとおりであります。

日本：オンラインゲームのパブリッシング事業（※）、スマートフォンアプリ運営・開発事業

韓国：オンラインゲームのパブリッシング事業及びオンラインゲームの開発並びにライセンスング事業、スマートフォンアプリ運営・開発事業及びライセンスング事業

（※）日本におけるオンラインゲームのパブリッシング事業は、平成30年2月で終了しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告セグメントの損益は、営業損益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報
前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

(単位：千円)

	日本	韓国	合計	調整額 (注1)	連結財務諸表計 上額(注2)
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	361,277	362,992	724,270	—	724,270
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	33,383	65,517	98,901	△98,901	—
計	394,661	428,510	823,171	△98,901	724,270
セグメント損失(△)	△349,944	△63,197	△413,142	13,332	△399,809
セグメント資産	531,718	440,761	972,479	△10,967	961,512
その他の項目					
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	215	116,974	117,190	—	117,190

(注) 1. 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) セグメント損失の調整額13,332千円は、セグメント間取引消去13,332千円であります。

(2) セグメント資産の調整額△10,967千円は、セグメント間債権債務消去等△10,967千円であります。

2. セグメント損失は、連結財務諸表の営業損失と調整を行っております。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

(単位：千円)

	日本	韓国	合計	調整額 (注1)	連結財務諸表計 上額(注2)
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	194,828	620,829	815,658	—	815,658
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	30,978	66,820	97,799	△97,799	—
計	225,807	687,650	913,457	△97,799	815,658
セグメント損失(△)	△174,958	△83,475	△258,433	△2,479	△260,912
セグメント資産	302,457	629,739	932,196	△158,564	773,631
その他の項目					
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	693	161,877	162,571	—	162,571

(注) 1. 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) セグメント損失の調整額△2,479千円は、セグメント間取引消去△2,479千円であります。

(2) セグメント資産の調整額△158,564千円は、セグメント間債権債務消去等△158,564千円であります。

2. セグメント損失は、連結財務諸表の営業損失と調整を行っております。

（1株当たり情報）

項目	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり純資産額	28円33銭	12円67銭
1株当たり当期純損失（△）	△25円53銭	△22円76銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失であるため記載していません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり当期純損失であるため記載していません。

（注）1. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度末 (平成29年3月31日)	当連結会計年度末 (平成30年3月31日)
純資産額の部の合計額（千円）	458,501	204,361
純資産の部の合計額から控除する金額（千円）	9,352	3,219
（うち新株予約権（千円））	(8,288)	(—)
（うち非支配株主持分（千円））	(1,064)	(3,219)
普通株式に係る期末の純資産額（千円）	449,149	201,141
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数（株）	15,854,800	15,880,800

2. 1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり当期純損失金額		
連結損益計算書上の親会社株主に帰属する当期純損失（△）（千円）	△404,809	△361,058
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純損失（△）（千円）	△404,809	△361,058
普通株主に帰属しない金額（千円）	—	—
普通株式の期中平均株式数（株）	15,854,800	15,863,890

（重要な後発事象）

当社は平成30年3月28日開催の当社取締役会において、下記の通り、第三者割当による新株式の発行及び第4回新株予約権の発行を決議し、平成30年4月13日に払込手続きが完了しております。概要は以下のとおりであります。

1. 第三者割当による新株式の発行の概要

(1) 発行新株式の種類及び数	当社普通株式	633,000株
(2) 発行新株式の払込金額	1株につき	395円
(3) 払込金額の総額	①Oakキャピタル株式会社	200,028千円
	②菊川 暁	50,007千円
(4) 払込期日		平成30年4月13日
(5) 増加した資本金及び資本準備金に関する事項	増加した資本金の額	125,017千円
	増加した資本準備金の額	125,017千円
(6) 割当先及び割当株式数	①Oakキャピタル株式会社	506,400株
	②菊川 暁	126,600株
(7) 資金使途	スマートフォンアプリ事業における、「Rappelz Mobile（ラペルズモバイル）」の開発資金、国内外の新作タイトル獲得のためのライセンスフィー及びミニマムギャランティー資金、「Flyff Legacy（フリフレガシー）」のマーケティング活動資金に充当する予定であります。	

2. 第4回新株予約権の発行の概要

(1) 新株予約権の名称	株式会社ガーラ第4回新株予約権	
(2) 新株予約権の総数	20,254個（本新株予約権1個につき100株）	
(3) 新株予約権の目的となる株式の種類及び数	当社普通株式	2,025,400株
(4) 発行価額	新株予約権1個当たり	420円
(5) 発行価額の総額		8,506千円
(6) 行使価額	1株当たり	395円
(7) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の総額		800,033千円
(8) 行使期間	平成30年4月13日から平成32年4月12日まで	
(9) 募集又は割当の方法	第三者割当の方法による	
(10) 割当先及び割当新株予約権数	Oakキャピタル株式会社	20,254個
(11) 割当日及び払込期日		平成30年4月13日
(12) 資金使途	スマートフォンアプリ事業における、「Flyff Legacy（フリフレガシー）」のマーケティング活動資金、「Rappelz Mobile（ラペルズモバイル）」のマーケティング活動資金、国内外の新作タイトルのマーケティング活動資金並びに新規事業展開又はM&Aを含む資本・業務提携のための資金に充当する予定であります。	